安政　横浜芝清

生糸代出入記録

七年　甲府佐兵衛

横浜芝清一件抄

乍恐以書付奉願上候

一甲府柳町三丁目家持佐兵衛奉申上候、私儀、年来絹糸綿類商売仕罷在候処、昨未六月横濱御開港ニ付、国産絹糸交易ニ可相成趣承知仕候ニ付、手代兵助差遣、様子承り候処、全交易ニ相成、諸国より茂追々持込絹糸其外諸品、交易致し候ニ付、横濱本町三丁目芝屋清五郎方江罷越、

封談之上、絹糸追々少々宛、同人方江相送り売渡、糸引替金子請取、差支無御座候ニ付、十月廿一日猶又、国産糸千百九斤、但壱斤ニ付銀百四拾匁替、此金高弐千五百八拾七両弐分弐朱ト銀弐匁五分ニ相定、前同様、清五郎方江売渡し、尤同日糸引渡し相済、為内金洋銀四百枚、此金三百拾壱両請取、残金弐千弐百七拾六両弐分弐朱ト銀弐匁五分、十一月六日可請取、封談取極置、同日ニ相成り右残金相渡し候様、清五郎方江申聞候処、未タ異人より相渡不申候ニ付、暫相待呉候様申之候ニ付、任其意相待候処、何分相渡し不申涙ニ付、追々催促致候処五六日相待呉候様申之、猶又相待居候得共、一圓相渡不申候ニ付、兵助より厳敷懸合申候得共、一向埒明不申候間、私方より追々為替取組渡し方

申遣候得共、右残金相渡不申候ニ付、手代兵助為替渡し方ニ
差支、誠以当惑仕候趣、飛脚差越候ニ付、不取敢私儀、右清
五郎方江罷越、種々相懸合候得共、不取留挨拶致し居、何分
相渡不申、大金之儀ニ有之、難渋至極仕候ニ付、△『無據横
濱本町五丁目石川屋与助方江引取、同人方相頼、同所町御会
所御役人中様江歎願仕候処、早速清五郎被召出、御利解被成
下、右残金相渡候様被仰渡候得共、前同様異人より相』△猶
精々掛合候得共、一向不取留事而已申之、今以相渡不申、一
躰私方ニ而ハ、異人ニ拘り候儀ニ無之、清五郎江引合之儀ニ
付、右様之儀御座候而ハ、此後商売向

差支、必至難渋仕候ニ付、不恐顧無余儀奉歎願候、何卒前者始末被為聞召訳、浦五郎被召出、右残金弐千弐百七拾六両弐分弐朱ト銀弐匁五分、早速相渡呉候様、偏奉願上候、何卒格別之御憐愍を以、右願之趣御聞済被成下置候ハハ、廣太之御仁恵と難有仕合奉存候、以上

安政七年申二月四日　　太田筑前守

支配所

酒井伯音守

甲府市柳町三丁目

家持

願人　佐兵衛（印）

名主権一郎代

同　吉　蔵（印）

野毛町

宿　久兵衛（印）

神奈川

御奉行所様

一正月廿七日七ッ時出立、栗原宿泊り、廿八日猿橋宿泊り、廿九日八王子宿泊り、昨日程ケ谷泊り、二月朔日朝横濱本町五丁目石川屋与助方江着、早速宿江掛合候処、一向不案内之様子ニ付、町会所江宿ヲ以聞合候処、会所下代被申候ハ、当人存寄り聞度由被申候間、早速佐兵衛殿同道ニて参り、下書見セ候処、只今町年寄御役所江罷出候間、帰宅次第此方より返事可致旨被申候間、引取待受候処、一向沙汰無之候間、二日朝宿主人差遣し候処、今日ハ当所御預り松本越前守様当所御見分ニ付、御用多ニ候間、相待居候様被申候間、差扣罷在候処、三日九ッ時頃沙汰有之候ハ、右御添翰并ニ願書差出し候ニハ、当所野毛町ニ御願済ニ相成候宿有之候間、右宿ヲ以御願立可致旨被申候間、早速野毛町江罷越、三浦屋久兵衛方江相掛合候処、未タ右様之一条手なれ

候義無御座候間、其向々伺之上御取次可致旨被申候間、相待居候処、所々伺之上立戻り、取次可致旨被申候間、当四日朝、右野毛町宿同道ニて、御奉行所江罷出、御添翰持参之趣訴所江申上候処、御添翰并ニ願書御預り相成、今日ハ引取候様被仰聞候ニ付引取候所、同日夕刻御差紙到来、明五日朝五ッ時罷出候様ニ御座候間、五日朝御奉行所江罷出候処、訴所御呼込ニ相成、昨日之願書御不都合文言有之間、改差出し可申旨被仰聞、下ヶ紙被成下御下ケニ相成候間、早速相改差出し候処、又候、御呼込ニ相成、右願御取上ケニ相成候間、今日ハ引取候様被仰聞候間、引取申候、

一当月五日夜六ッ半頃、本町四丁目五丁目之間ニて、阿蘭陀人弐人切殺申候、切手ハ何者ニ候哉、末夕相分り不申候、其夜ハ御奉行様始諸役人方、御運上所江御詰被成候、

一八日八ッ時半頃、右蘭人葬礼ヲ出し申候、尤本村之寺江葬候由、此間三日町中一統戸〆致居候、入口木戸は、銘々より手形無之候而ハ、出し不申候、

乍恐以書付ヲ御届奉申上候

一甲府柳町三丁目佐兵衛奉申上候、私所持之印形、昨八日何れ江取落し候哉、相知れ不申候ニ付、此段以書付御届奉申上候、以上

安政七年　　甲府柳町三丁目
申二月九日　　佐兵衛
名主代
吉　蔵印

神奈川
御奉行所様

御添翰上書
横濱
溝口讃岐守様
酒井隠岐守様
新見豊前守様
赤松左衛門尉様
村樋淡路守様
堀　織部正様
竹本図書頭様
松平石見守様

甲府
酒井伯耆守

一当時戸部御奉行所御出張　竹本図書守様
酒井隠岐守様
一同　神奈川宿御旅宿
松平石見守様
二月十日アメリカ十四番船ウエンリート商館江参り候

ニ月十三日御差紙ニ付、朝五ッ時戸部御役所江罷出候、尤
今日ハ丁代案内ニ御座候、
御白州江御呼込ニ相成、御掛り脇屋宇三郎様被仰渡、佐兵衛其
方儀、先達而願出候横濱町三丁目清五郎江掛り、絹糸売掛代金
滞之義、願出之通無相違歟、尤勤番支配より添翰持参致候上ハ、
無相違と存、先日清五郎召出、右佐兵衛より願出候通相尋候処、
無相違趣ニ付、早速佐兵衛方江実意ヲ以相掛合、示談為致、若
示談不行届候而ハ、当役所ニおゐて是非之調相成兼候間、返翰
差出にハ相成ソ、然ル時ハ、訴訟方帰国致而も、大金事故、其
儘ニ差置カイソ、サスレハ、江戸三奉行之内江添翰持参致願出
へくハ、其節ハ両方共、抓合之上雑用相掛ル間、格別勘弁致、
佐兵衛方江

一当時戸部御奉行所御出張　竹本図書守様
酒井隠岐守様
一同　神奈川宿御旅宿
松平石見守様
二月十日アメリカ十四番船ウエンリート商館江参り候

ニ月十三日御差紙ニ付、朝五ッ時戸部御役所江罷出候、尤
今日ハ下代案内ニ御座候、
御白州江御呼込ニ相成、御掛り脇屋宇三郎様被仰渡、佐兵衛其
方儀、先達而願出候横濱町三丁目清五郎江掛り、絹糸売掛代金
滞之義、願出之通無相違歟、尤勤番支配より添翰持参致候上ハ、
無相違と存、先日清五郎召出、右佐兵衛より願出候通相尋候処、
無相違趣ニ付、早速佐兵衛方江実意ヲ以相掛合、示談為致、若
示談不行届候而ハ、当役所ニおゐて是非之調相成兼候間、返翰
差出ねハ相成ソ、然ル時ハ、訴訟方帰国致而も、大金事故、其
儘ニ差置カイソ、サスレハ、江戸三奉行之内江添翰持参致願出
へくハ、其節ハ両方共、抓合之上雑用相掛ル間、格別勘弁致、
佐兵衛方江

示談可致旨、先達而申渡置ニ依、右之如、其方ニも格別之勘弁致、清五郎方江相掛合、示談行届様ニ致セ、夫共清五郎不実意儀申ニ於てハ、其段申立ヨ、又候調方も可有ソ、先今日ハ引取、

一十三日夜九ッ時頃より八ッ過迄ニ、異人共船中ニて、大炮三十発斗り三度ニ打放申候、尤玉込と相見へ、格外え響ニ而、是迄右様玉込大炮打放候事無之由、所之者申候間、如何成行候哉と心配仕候処、八ッ時過より、何之沙汰も無之安心仕候、

一十六日異人共願ニ付、夜中無提灯之者ハ打放可申旨、御触有之候、尤先夜より折節ハ、異人共鉄炮持参之者五六人又ハ七八人宛、夜行致候ヲ見請申候、

一二月廿六日夜、ハトバ舟役所人足寄場ニ、水主・車力共火ヲタキ居候処江、異人年十七八才男参り、心安キ者ト相見へ、雑談杯申、其内種ケ嶋鉄砲取出し見セ杯致し居候処、如何之間違ニ哉、火ぶた切レ、左官手傳之男江、首筋より耳江掛ケ打抜、即死致し候、全以間違之様子ニ御座候、

一当月十三日御呼出之後、清五郎方江度々掛合候処、異人方江掛合致居候処、先日ハルヘル長崎表江参り、当月下旬ニハ又候当地江参り候間、夫迄相待呉候様頼ミ御座候ニ付、一向尺取不申候間、廿八日戸部御役所書面ヲ以願出候、左ニ、

乍恐以書付奉申上候

一甲府柳町左兵衛奉申上候、先達中、横濱町三丁目芝屋清五郎江掛り、生糸売掛代銀滞一条ニ付、奉出訴候処、当月十三日訴出答共召被出、示談可致旨、御利解被仰聞難有承知仕、其後、追々右清五郎方江及掛合候所、前奉申上候通、異人より代銀相渡り不申抔と申之、何分尺取木申、実以差支難渋仕候ニ付、不恐顧猶亦奉歎願候、何卒格別之御慈悲ヲ以、右清五郎召被出、早速残銀勘定致し、済方ニ相成候様仰付被下置度、偏ニ奉願上候、以上

安政七年

申二月廿八日

頼人
甲府市柳町三丁目
佐　兵　衛（印）
同　名主代
吉　　蔵（印）

神奈川
御奉行所様

右之通、書面訴所江差出候処、右書面趣承知致候、又候清五郎召出利解申聞へく間、今日ハ引取、右様被仰渡ニ御座候、

三月朔日、清五郎代伊三郎参り、昨二月廿九日戸部御役所江召被出、被仰聞候ハ、佐兵衛出訴一条示談不行届趣申出候、如何之訳合ニて示談不行届、若哉不行届候ハハ、右之趣書面ヲ以可申出由被仰聞候趣ヲ申、右ニ付、甲府藤弥并ニハルヘル江掛合之内、日延致呉候様頼ミニ付承知致、当十八日迄日延致遣し申候、

乍恐以書付奉申上候

一甲府柳町左兵衛奉申上候、私義当御場所横濱三丁目芝屋清五郎江相掛り候糸代金滞出入、右清五郎

相手取、御奉行所様奉出訴候処、厚キ御利解被仰聞、難有仕合奉存候、然ル処、右清五郎より何れニも内済仕度旨、懸合有之、就而ハ来十八日迄日延御猶予奉願上呉候様懸合有之候間、何卒右十八日迄御日延御猶予被成下候様奉願上候、以上

安政七申年　　甲府柳町三丁目

三月朔日　　願人　　佐兵衛（印）

同　名主代　　吉兵衛（印）

御奉行所様

右之通差出し候処、訴答共訴所江被召出、右願之趣聞済遣候間、日限通り無相違、実意以示談可致由被仰聞候、

一三月五日芝屋清五郎・安田屋両人ニ而、甲府表藤井屋弥助殿方江掛合ニ出立致候、

一三月十七日夕刻、伊三郎参り被申候ハ、今朝重兵衛殿方江御越之由、右一条追々延引ニ相成、御気毒ニ存候、此間当月十日御運上所江被召出、先日願之趣、再応御尋御座候間、前以奉申上候通り無相違趣申上候処、此度ハ、コンシウロヲ方江

御掛合ニ相成候間、間違等有之候而へ不相済儀ニ付、篤と勘弁致、間違無之様、今一応書面ヲ以巨細ニ可申上旨被仰聞、則別段書面差出并ニ右願之通相違無御座候と申添書迄差出し申候、尤　同日、外十軒余も異人掛り合之分被召出御調有之候、此度ハ江戸表御奉行所江差出、夫よりコンシウロヲ江御掛合ニ相成候様子ニ御座候間、其内何れニも相片付可申、且ハ甲府表よりも一向沙汰無之候間、何卒当月晦日迄又候日延頼度、左候得ハ、近日甲府表よりも帰宅可仕と存候間、何れ近日之内ニハ、両方共相片付可申間、是非共日延致呉候様、掛合テ御座候得共、一向不取留角立候処無之候間、日延之儀ハ、一応御奉行所江歎願之上可致由申言り、同十九日朝御奉行所江差出候書面、左ニ、

乍恐以書付奉願上候

一甲府柳町佐兵衛奉申上候、御当地横浜本町三丁目芝屋清五郎江掛り、生糸代銀滞ニ付当二月中奉出訴、其後　二月十三日相手方共

御呼出し之上、示談済方可致旨、御利解被仰付難有仕合奉存候、就而ハ済方之儀、右清五郎江度々及掛合候処、何分埒明不申候ニ付、同月廿八日其段奉歎訴候処、猶又相手清五郎御呼出し之上、厚く御利解被仰付被下置候ニ付、右清五郎より私方江、何れニも内済仕度旨掛合有之、御日延御猶予御願申上呉候様、精々頼候ニ付、三月朔日相手方一同、同十八日迄御猶予奉願上候処、御聞届被成下難有仕合奉存候、其後、数度及掛合候得共、前同断、異人方掛合不行届ニ付、猶又御猶予奉願上呉候様申之候得共、右清五郎義是迄之次第、虚実不分明之申候何分事柄不相訳、右躰不束ノ事而已申清五郎ニ候得ハ、右糸代銀、異人方より全く語取置自用致し居候哉も難斗、今更安心難相成、実以当惑仕候間、何卒格別之以御慈悲ヲ、

今一度相手清五郎被召出、厳重之御調被成下候様偏ニ奉願上候、以上

安政七年　　甲府市柳町

申三月十九日　　佐兵衛煩代

長右衛門（印）

同　名主代

吉　蔵（印）

神奈川

御奉行所様

右之通、訴所江差出候処、御呼込ニ相成、書面之趣聞届、明日清五郎召出、存寄り承わり候上、取斗ひ方も可有間、今日ハ引取、

差上申一礼之事

私儀、横濱町三丁目清五郎江相懸り、絹糸代金済方之儀ニ付、酒井伯耆守様御添翰を以、当御役所江出訴仕候処、右ハ御取上御吟味可相成筋ニハ無之候得共、格別之訳を以、清五郎御呼出、可及示談旨被仰渡候処、売先代金滞居、融通礑と差支、元代拂方難出来、

示談不行届段申上候ニ付、願書御下ケ被遊候段被仰渡、酒井伯
耆守様江之御用状御渡被下置奉請取、仍而御請証文差上申処、
如件

万延元申年　　甲府柳町三丁目
閏三月九日　　家持佐兵衛煩付
　　長右衛門（印）
　　名主権一郎代
　　与　七　郎（印）

神奈川
　御奉行所

右之通り願書御下ケ御返翰ニ相成、何共心外千万余り、御奉行
不行届儀被奉存候得共、無是非次第、仍ハ此上江戸御評定所江
奉願上候心得ニ相成、佐兵衛儀帰甲、長右衛門儀ハ彼地江滞留
罷在候内、清五郎方運上所より御呼出二而、追々御吟味有之候
趣、右付清五郎方より長右衛門方江、示談有之候得共、何分不
相当之儀ニ付、取敢

不申候ニ付、色々申参候内、薬缶屋共相談之上、勘弁致遣し候趣申聞候ニ付、其段清五郎方江申聞候処、同人より運上所　江申上候処、其儘御調延ハ相成、一向御沙汰も無御座、彼地滞留難請趣相聞候ニ付、当方ニ而も種々工風致し見候得共、致し方も無之、無余儀当地御役所より御懸合奉願上候、願書左ニ相記ス、（以下余白）